



チアダンスチーム トパーズ グレイス (JSS毛呂山スイミングスクール)

左から塩野比奈子さん、新井里帆さん、藤原和さん、高嶋ひかりさん、瀬戸美琴さん、山田明日香さん

大好きなチアをとおして、目標に対して頑張る力を養う

■全米選手権初出場準優勝

JSS毛呂山スイミングスクール所属のチアダンスチーム「トパーズグレイス」が、今年2月にアメリカフロリダ州で行われたユニバーサル・ダンス・アソシエーション主催のダンス全米選手権に初出場し、準優勝という成績を上げた。グレイスが出場したのは、高校3年生以下のpom部門スモール編成の部。この部門には、世界から選抜された全16チームが参加した。

選手たちを指導し、全米選手権準優勝へと導いた奥富華奈さんは、「夏の選考会で、全米選手権への出場が決まっただけで、大会を目標に練習を続けてきました。大会のために、振り付けや構成を変えたのですが、最初は皆ついていけず苦労していました。しかし、一人ひとりがあきらめることなく努力し、本番ですばらしい演技を披露してくれました。親元から離れ、遠くアメリカの地を訪れ、不安はあったと思いますが、大会では、皆本当に落ち着いて、よく普段どおりの力を発揮してくれました」と大会の感想を述べてくれた。

■仲良く！ 敵しく！

JSS毛呂山スイミングスクールのチアダンスチームは、学年ごとに分かれて活動している。今回、全米選手権で準優勝を成し遂げた「グレイ

ス」は高校生のチーム。中学生の「ブラスト」、小学4年～6年生の「ジュニア」、幼児から小学3年生までの「キッズ」で練習を行っている。

「グレイスの6人は、ジュニアのころからずっと一緒に練習してきたので、団結力が強く、そして仲良しでもありますね。しかし、それだけではなく、今は学校が終わってから練習を行っているので、学業との両立を含め、それぞれが自分に敵しく練習に取り組んでいます」と奥富さんは話す。

■大好きなチアをとおして

「チアダンスというチーム競技をとおして、お互いを思いやる気持ちや、信頼関係を築いてくれていると感じています。この経験はきっと、社会に出てからも生きてきます」と奥富さんは、選手たちを温かい目で見守っている。

大好きなチアダンスをとおして、選手たちは、目標に向かって頑張る力や仲間と協力する力などさまざまなことを学んでいるようだ。



奥富 華奈さん
チアダンス教室インストラクター